



令和8年1月発行

発行：香川医療生活協同組合
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P : <http://t-kyodo.com/>

新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。昨年は「健康まつり」をはじめコロナ禍で途切れていたみんなで集う楽しい様々な活動が戻り、地域の中での人同士、また異なる組織同士のつながりの重要性をあらためて実感した1年でした。

残念ながら新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の流行もまだまだあり全く油断できませんが、回復期リハビリテーション病棟でも運動会や歌のイベントなどリハビリテーションを推進していく上でも重要な楽しいイベントも継続できています。

高松協同病院はWHOが推進する健康増進拠点病院（HPH）として地域の皆様に医療・介護を提供し地域全体の健康への貢献を目指して日々奮闘中ですが、健康づくりの上で最も重要なのは実は「平和」です。本年は当院の敷地内に「9条の碑」を建設する計画を進めており、その運動の中であらためて地域の方々とも平和でみんなが健康に過ごせるような世の中になるように祈念して、年頭のあいさつとさせていただきます。



院長 北原 孝夫

新年あけましておめでとうございます。

昨年は経営改善を掲げて駆け抜けてきた1年でした。現場スタッフの多大な努力もあり、2025年度はなんとか黒字決算になりそうです。ただ、昨今の医療従事者の不足が当院も直撃し、看護師・介護士・リハスタッフとも必要人員に足りない状況が見られています。もし皆さんのお知り合いの方で、短時間からでも働いてみたいと言われる方がおられれば、是非当院まで御連絡ください。また昨年は災害時支援の組織作りとして、香川県災害リハビリテーション支援協会（略称：香川JRAT）の設立に力を注いだ1年でした。南海トラフ自身のような大きな災害に備えて、香川県から災害関連死を少しでも減らすために、避難所や生活先でリハビリテーションのスタッフが支援に入る組織です。もちろん出勤しないのいいのですが、今年から地域や香川県の防災活動に参加して、その準備をしていきたいと考えています。今年もよろしくお願いいたします。



副院長 植木 昭彦

あけましておめでとうございます。昨年は病棟で排尿自立支援の取り組みが始まりました。尿道カテーテルの入っている方からカテーテルを抜去し、トイレで排尿できるよう働きかけるものです。多職種で抜去後の排尿困難、尿失禁、頻尿などの情報を共有し、対策を検討してきました。カテーテルが入っていると尿路感染症のリスクが高まりますし、日常生活においてもリハビリテーションにおいても何かと邪魔になります。できるだけ早く抜去し、自力で排泄できるよう取り組んでいきます。排泄の問題は人間の尊厳にも関わると考えます。尊厳を守る排泄ケアを行うべく、学習と実践を積み重ねていきたいと思えます。

私事ですが、今年の春には下の子が家から出ていきます。18年前、0歳の息子を連れてきたら通所リハの利用者さんたちが次々と抱っこしてくださいました。息子に向けてくださった笑顔を今でも思い出せます。元気に夢を追いかけ、人を笑顔にできるような、人の感情を動かせるような大人になって欲しいと願います。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



医師 北原 紀子

》 森之宮病院リハビリテーション研修会 《

2025年12月6日、高松協同病院 外来リハビリ室にて、「森之宮病院リハビリテーション部 副部長の神尾昭宏先生」を講師にお迎えし、脳卒中片麻痺患者に対する評価・治療戦略をテーマとした研修会を開催しました。当院リハビリテーションスタッフに加え、関連医療機関からの参加も含め、計27名が参加し、活発な学びの場となりました。

講義では、痙縮や運動麻痺を単に「筋の硬さ」や「動かしにくさ」として捉えるのではなく、体幹や肩甲帯の姿勢制御、感覚入力の流れ、運動制御の協調性といった複数の神経システムの視点から統合的に理解する重要性について解説していただきました。特に、姿勢・感覚・運動を連続したプロセスとして捉える考え方は、日常臨床を見直す大きなきっかけとなりました。

また、デモンストレーションでは、入院中の患者様にご協力いただき、上肢機能に対する治療を実践形式でご指導いただきました。介入が進むにつれて、普段は痙縮が強く動かしづらい上肢の筋緊張が徐々に和らぎ、分離運動や手指の伸展が出現する様子が見られました。患者様ご本人・ご家族様・スタッフがともにその変化を喜び、治療の可能性を共有できた非常に印象的な場面となりました。

本研修を通じて、姿勢制御や感覚システムを重視した治療戦略の有効性を再確認するとともに、理学療法士・作業療法士が共通の視点を持って連携し、チームとして患者様の回復を支えることの重要性を改めて実感しました。今後も教育研修部では、院内外の学習機会を継続的に企画し、スタッフの専門性向上と、より質の高いリハビリテーション医療の提供に努めてまいります。

教育研修部 理学療法士 嶋田陽一



》 リハビリテーション・ケア合同研究大会 大阪2025 《

全国学会は久しぶりでとても刺激を受けました。特に、今回気になっていたiPS細胞の研究でノーベル賞を受賞された山中伸弥先生の講演を聞くことができ、今後の医療の変化に私たちの活躍の方向性が変化していくと感じております。また各地域での福祉サービスや現状についてシンポジウムを聞く事で社会的に不利になっている症例への関り方や精神疾患をお持ちで社会復帰までの支援等、当院でも力を入れている内容もあり、全国的には胸を張れる医療も提供できていると自信になりました。今回発表では立ち座りについて研究をしましたが、全国的にも時間の問題で分かっているにもかかわらず提供できていない、どのような工夫をしているか等興味を持ってもらえた様子だったのでとても楽しく発表をすることができました。当院での取り組みも継続して全国に研究発表をして行きたいと思っております。



》災害時のリハビリテーション支援活動に関する協定の締結式

10/22「災害時のリハビリテーション支援活動に関する協定」の締結式を行いました。

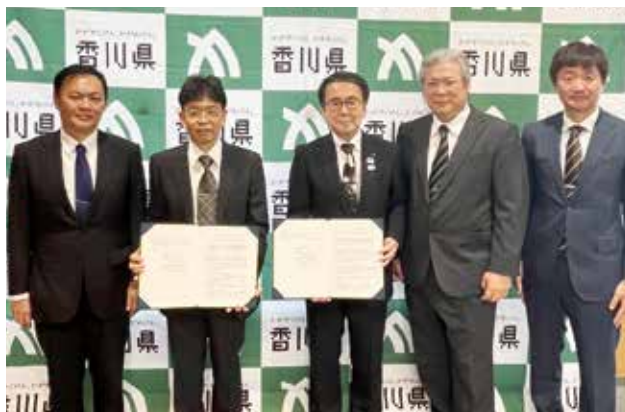
災害リハビリテーションとは、災害時、被災者の生活不活発による災害関連死を防ぐために、リハビリテーションの専門職が組織的に支援し、早期の生活の再建や復興を目指す活動です。具体的には、避難所などの環境評価や改善の提案、被災者への必要な評価と対応の実施、避難所などでの運動やレクリエーションの指導、リハビリテーション器材の提供などを行います。

今年9月南海トラフ地震の被害想定で、香川県の災害関連死の死者数が1200人から2400人と発表されました。直接災害の被害者を減らすことは勿論ですが、この災害関連死をゼロに近づけるために、私たち香川JRATの活動を今後充実させていきたいと考えております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

香川JRAT代表、高松協同病院 医師 植木昭彦

※香川JRATは日本災害リハビリテーション支援協会JRATの支部組織として、令和6年1月に設立されました。



》通所リハビリテーション

当通所リハビリテーションは“いつでも自分らしく、強気でせめる!! ~より若く、より頼もしく、より元気に~”をテーマとし、自立支援・運動メインのサービスです。自分自身で自立した生活を長く続けられるよう、また笑顔で過ごせる時間を長く続けられるように身体的フレイル、オーラルフレイルに視点を当て、利用者様全員で屋外歩行訓練とフレイル対策の運動メニューを実施しています。開始前は「しんどいな~」「いやだな~」と不安を声にする利用者様もたくさんいましたが、最近では足踏みの音もより一段と大きくなり職員の方が元気をいただいています。

また屋外を歩くことによって自信がつき、「外出するのが楽しい。」「公共交通機関を利用して買い物に出かけた。」ご自宅ではほとんど屋外を歩くことがないので「屋外歩行訓練が楽しみ!!」と言われる方もいます。今後も利用者様が健康で笑顔のある毎日が送れるように職員全員でサポートしていきたいと思えます。

興味のある方はぜひ一度見学にお越しください。お待ちしております。



》病棟クリスマス会

12月23日、東西病棟クリスマス会を開催しました。

職員のバンド演奏、マジック披露、患者様の演奏、ビンゴ大会などを行いました。

業務の合間をぬって練習した職員たちのクリスマスソング、川の流の様になどのメジャー曲を4曲披露しました。

入院患者様にも参加協力をしてもらい、ハーモニカ演奏での素敵な音色を披露していただきました。

演奏の合間の寸劇にも了承を得た患者様にサンタの姿で参加していただきました。最後は恒例のビンゴゲームで大いに盛り上がりしました。

久しく東西病棟合同のクリスマス会はコロナ過で開催されていなかったのですが、たくさんの方々の協力で無事楽しんでいただけたようでした。



》ピースマラソン《

12月6日にピースマラソン（ピーチャリ）を行いました。コースは建設一周年となった高松平和病院の「憲法9条の碑」から高松協同病院にも建設が決まった「憲法9条の碑」建設予定地までをつなぎました。民医連職員、民医連OB、組合員さん、労働組合と80名近い参加者で盛大な企画となり「平和」「憲法9条」の大切さを改めて感じる大切な1日となりました。高松協同病院に建設予定の「憲法9条の碑」は、現在、デザインを考えており今年の5月ごろに完成予定です。完成した際にはお知らせいたしますので、ぜひお越しください。



》管理栄養士のリハビリごはん通信《

2025年11月から当院のInstagramで『管理栄養士のリハビリごはん通信』を始めました。回復期リハビリテーション病棟は、リハビリテーションによって身体機能を回復させることが最大の目的です。その身体作りに重要なのは、毎日の食事です。栄養と愛情を込めて患者様を支える食事作りを心掛け、病院食を楽しんでいただけるよう選択メニューや行事食も取り入れています。

『栄養もリハビリテーションです』。Instagramでは、食事の写真と献立のポイントなどをご紹介しますので、楽しみにしててください。これからも“リハごはん”で、患者さまのリハビリテーションを応援していきます。

管理栄養士 岡野幸代



Instagram始めました



病院の日々をあげています。
フォローよろしく
お願いいたします。



@TAKAMITSU_KYODOKU_HOSPITAL

》コーヒーカフェ開店(shinchan's coffee)《



当院カフェは、2月中旬にリニューアルオープンします。これまで以上に「癒し」と「温かみ」を大切に、患者さま・ご家族・職員の皆さまが気軽に立ち寄れる空間を整えました。ドリンクは、香り高い自家焙煎のコーヒーをはじめ、カフェラテ、季節のスムージーをご用意。フードも、ケーキや総菜パン（パルフェ）、ホットサンドなど、ちょっとした休憩や小腹満たしにうれしいラインナップを取りそろえます。また、スマートレジを導入し、お会計はよりスムーズに。診察やリハビリの合間、面会の待ち時間、勤務の休憩時など、ほっと一息つけるひとときをお届けします。皆さまのご来店を心よりお待ちしております。



お店の情報は
こちらから
チェック



@SHINCHANSOFFEE